

平成 21 年 4 月 1 日現在

研究種目： 基盤研究 (C)

研究期間： 2006～2009

課題番号： 18520019

研究課題名 (和文) 二十世紀分析哲学の総括とその将来的意義の歴史的・体系的解明

研究課題名 (英文) An Overview of the 20<sup>th</sup> Century analytic philosophy and its historical and systematic examination

研究代表者 松阪 陽一

首都大学東京・人文科学研究科・准教授

研究者番号： 50244398

研究分野： 哲学

科研費の分科・細目： 2801

キーワード： 哲学、西洋哲学、論理学、意味論

1. 研究計画の概要

- (1) 20 世紀における分析哲学、特にラッセル、フレーゲ、ウィトゲンシュタイン、クワインの哲学的見解の射程を見積もる。
- (2) 上の成果を踏まえた上で、21 世紀における哲学研究の方向性を模索する。

2. 研究の進捗状況

毎年研究合宿を開催し、必要な外部知識の吸収し、各自の研究の進捗状況を確認し合うという形をとっている。2007 年度は松阪が、2008 年度は岡本が自らの着想について発表を行った。

3. 現在までの達成度

各研究者で多少のばらつきはあるものの、概ね目的は達成されていると思われる。

4. 今後の研究の推進方策

本年度もやはり研究合宿を開き、各研究者の最終的な成果のチェックを行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] 計 3 件)

Kazuyuki Nomoto, "The Methodology and Structure of Gottlob Frege's Logico-philosophical Investigations," *Annals of Japan Association for Philosophy of Science*, vol.14. no.2, pp.1-25, 2006.3.

Nobuharu Tanji, "Consciousness and Evolution", *The Proceedings of the KSPS 2007 Annual Conference*, 1-7, 2007.

岡本賢吾, 「なぜ意味論はプロセスを含むか---表示意味論・領域理論をめぐって」、『科学哲学』40-2、23-39 頁、2007 年

[学会発表] (計 5 件)

Nobuharu Tanji, "Consciousness and Evolution", *Korean Society for the Philosophy of Science*, 2007 年 7 月 3 日、ソウル国立大学

岡本賢吾, 「双対性から論理と計算を捉え直す --- 領域理論から量子計算、相互作用の幾何まで」、日本科学哲学会第 40 回大会、2007 年 11 月 11 日、中央大学多摩キャンパス

岡本賢吾, 「Why Read Frege from Constructivist Viewpoint?」, *Workshop on Constructivism: Logic and Mathematics*, 2008 年 5 月 29 日、北陸先端科学技術大学

岡本賢吾, 「論理的推論の生成」、哲学会第 46 回大会、2008 年 10 月 25 日、東京大学

岡本賢吾・竹内泉, 「数学に於ける変数(2)」日本科学哲学会第 41 回大会、2008 年 10 月 18 日、福岡大学

[図書] (計 7 件)

野本和幸、『ゲーデルと 20 世紀の論理学 2  
ー完全性とモデル理論』第 3 部、pp.191-273、  
2006 年、東大出版会

野本和幸、日本数学会編『数学辞典』改定第  
4 版、「フレーゲ」の項目、p.417. 2007 年

岡本賢吾、『哲学の歴史 11』、281-344 頁、中央  
公論社

野本和幸、日本科学哲学会編『分析哲学の誕生：  
フレーゲ・ラッセル』、1-34 頁、51-76 頁、2008  
年、勁草書房

松阪陽一、日本科学哲学会編『分析哲学の誕生：  
フレーゲ・ラッセル』、257—276 頁、2008 年、  
勁草書房

岡本賢吾、日本科学哲学会編『分析哲学の誕生：  
フレーゲ・ラッセル』、143-176 頁、2008 年、勁  
草書房

松阪陽一、岩波講座『哲学 03 言語/思考の哲学』  
、15-42 頁、268-276 頁、295-299 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕